

長年教育研究をしていて疑問に思った小学校時代の記憶がある。

小学校2年生までいた鹿児島県屋久島の栗生（くりお）小学校時代ではなく、父の転勤で本土の鹿屋市立鶴羽小学校時代（1956～60年）になってからのこと（栗生小学校でもあったかも知れないが記憶にない）。元旦に自宅でお雑煮などを食べた後、登校した。それは学校で元旦の行事があったからである。

よくは覚えていないのだが、校長訓話があり、「年の始めに」という唱歌を斉唱し、紅白の饅頭（あるいは餅）をもらって帰宅した。正月だから、一応、一番いい服を着て行った。

周知のように、第二次世界大戦前は、天皇制教育徹底のために学校儀式が最大限利用された。その儀式を規定していたのは、1890（明治23）年の「教育ニ関スル勅語」発布の翌年に制定された「小学校祝日大祭日儀式規程」であった。

その第三条は「一月一日ニ於テハ学校長、教員及生徒一同式場ニ参集シテ第一条第一款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ」となっていた。「第一条第一款及第四款ノ儀式」とは次の通り。

一 学校長教員及生徒

天皇陛下及

皇后陛下ノ御影ニ対シ奉リ最敬礼ヲ行ヒ且

両陛下ノ万歳ヲ奉祝ス

四 学校長、教員及生徒、其祝日大祭日ニ相応スル唱歌ヲ合唱ス

さすがに元旦の儀式では教育勅語の奉読等（第二、三款）はなされてはいなかった。

戦後教育改革によってこの規程はなくなったはずである。しかしながら、筆者の小学校では残っていた。ただし、1960年4月に入学し1963年3月に卒業した中学校ではこの行事の記憶はない。

おそらくこうした行事を中止せよ、という通達などがでなかったため、それぞれの学校の判断か、あるいは当時の市町村教育委員会の判断で行っていたのかもしれない。しかし、明確な理由を調べる時間も機会もなかったので、この疑問はながらく続いていた。

2011年8月26日、故郷の鹿屋で教職員対象に話をする機会があったので、そこで、「こうした行事に出た経験のある方は？」との質問を会場に投げかけたところ、数人の手があがったのである。一人の方に年齢を聞くと、筆者よりも7歳年齢の若い方であった。

どの地域だったのかを確かめる時間はなかったのだが、鹿児島県のいくつかの地域では1960年以降のこの行事が続いていたということになる。ますます疑問が深まるばかりである。

機会があれば改めてその理由を探りたいと思っている。

拙稿を読まれた方で、何かご存知の方があれば教えていただきたい。

昔々の田舎の小学校の頃、正月に学校へ行くと、儀式があつて紅白饅頭をもらつて帰つた
気もする。